

◇学習環境について◇

<整理整頓>

- ◇整然とした環境にし、その時間に必要でないものを掲示したり、書いておいたりしない。
- ◇机の横には何もかけない。

<掲示物>

- ◇前面の掲示物は必要最小限にとどめる。(必要なことに児童の注意を向けさせるため。)
- ◇その日の学習予定を丁寧に書くか、教科カードをはる。(見通しをもって学習できるようにするため。)

<机の並び>

- ◇通常一斉学習では、指導者と児童が正対するように机を配置する。
発達段階に応じてパーソナルスペースをとる。



上黒瀬小 授業モデル

めあて→まとめ→振り返りが1連の流れとしてつながる授業

<授業始め>

◇日直は教卓前に出て号令をかける。

〔授業始まりのあいさつ〕

「姿勢。これから、○時間目の○○の学習を始めます。」（はい。）

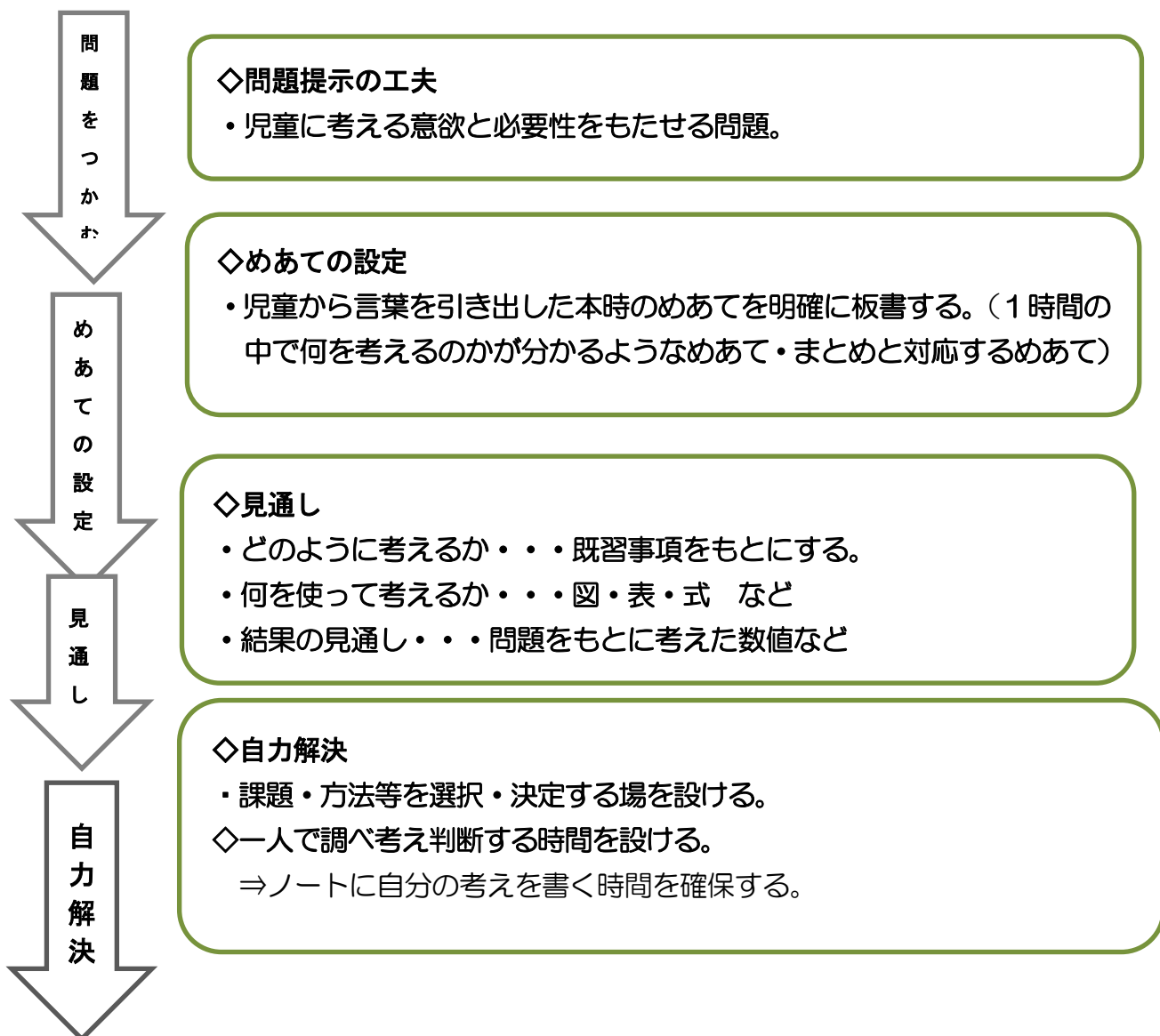
「先生と目が合っていますか。」（はい。）

「礼。」（お願いします。）（先言後礼）

「立腰」

「瞑目」

*落ち着いた雰囲気、静かに授業を始める



比較・検討

◇比較・検討

(ペア・グループ学習)

- ・必然性のあるペア・グループなど、学習形態を工夫し、他者に学ぶ場を設ける。
- ・話型を提示したり、キーワードを示したりして、自分の考えをお互いが必ずことができるようにする。

(全体交流)

- ・指導過程の工夫・意図的な指名により全児童が発表・活躍できる授業づくりをする。
⇒教師自ら児童の意見を大切に示す姿勢を示す(誤答の扱い・ネームプレート等の活用)
⇒発言をつなげ、集団での学び合いとなる場を設ける。
⇒対立・多様な考えを生む発問等を工夫する。
⇒つぶやきを積極的に取り上げて全児童に発表のチャンスを与えるようにする。
⇒承認・賞賛・励ましの言葉がけを積極的に行う。

まとめ

◇まとめ

- ・1時間の中のキーワードなどを使って、児童からまとめを引き出す。
⇒めあてに対応したまとめを作る。
- ・まとめを明確に板書し、1時間の授業の流れが把握できるようにする。

適用問題

◇適用問題

- ・比較・検討で出た考えが一般化できるものか確かめるための問題。

振り返り

◇振り返り

- ・1時間の授業の思考過程を振り返ってまとめる。
⇒振り返りの視点を明確にし、学習内容に関する具体的な記述をさせる。
⇒分かったことだけでなく、分からない点も振り返りに書いてもよい。
(分からない点は、次の授業の始めの確認事項になったり、児童の理解度を把握したりすることにもつながる。)

<授業終わり>

[授業終わりのあいさつ]

「姿勢。これから、〇時間目の〇〇の学習をおわります。」(はい。)

「先生と目が合っていますか。」(はい。)

「礼。」(ありがとうございました。)(先言後礼)